



学力向上セミナーⅢレポート

2025.2.14

令和7年1月27日（月）に春採中学校で、授業力向上セミナーⅢを開催しました。セミナーでは、春採中学校の大内教諭の授業をもとにして、「研究授業参観後の子供の姿で語り合う研究協議会の具体」、「「釧路市標準学力検査」の結果から各校の課題を把握する小問分析の方法」を共有しました。また、新陽小学校の三守教諭、鳥取西中学校の細野教諭の「秋田県大館市視察の報告」をもとにして、学習指導の工夫・改善の視点を広げました。



当日資料はコチラ



授業者：大内拓哉 教諭（春採中）

子供の姿で語り合う事後検討を増やしましょう



感想より②

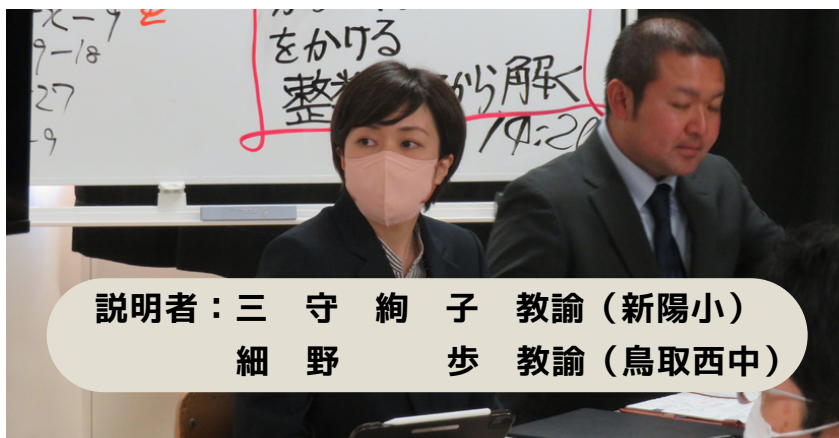
標準学力検査の小問分析による授業改善の方法が大変勉強になりました。ただ漠然と数値のみの結果を追うのではなく、ポイントを絞って検証し、子どもたちに還元していくことが大切なのだと感じました。小問分析の方法を全教員で共有し、実際に分析してもらい、次年度の学力向上プランに反映させていきたいと考えています。また、秋田県大館市視察の報告を聴いて、自校でも「学び方のガイダンス」を学力向上担当者が一括して行う取組を実践しようと考えています。

→小問分析や大館市視察の報告を踏まえて、各学校の具体的な取組につなげていきましょう。

感想より①

学級全体ではなく、特定の子供の観察を担当し、観察結果について伝え合い、授業分析につなげるという事後検討会の方法が新鮮でした。日頃は授業全体（マクロ）の視点から事後検討を行うことが多かったのですが、今回は特定の子供（ミクロ）に焦点を当てて観察し、その結果を共有することで、授業全体（マクロ）の改善点が見えてくるようになりました。この学びは大変有意義でした。この方法を学校に広げていきたいと考えています。

→各学校で授業を見合うときには、授業者の働きかけがどんな子供の姿につながっているのか、観察者が子供の姿を細かく見取り、その働きかけが効果的であったのかどうかの分析結果を授業者に伝えることが大切です。また、校内研修においても、子供の姿をもとにした研修を推進していきましょう。



説明者：三守絢子 教諭（新陽小）
細野歩 教諭（鳥取西中）